

防災

高梁川総合水防演習

水害に備える

総社市で27年ぶりに大規模訓練を実施



平成23年、台風12号の影響で高梁川が増水。市内では、床上・床下浸水をはじめ、土砂崩れなどの被害が発生。下倉の草田地区や日羽の作原地区など市内6地区に避難勧告が発令され、計501人が避難しました。

洪水 水や高潮などによる大規模水害の発生を未然に防止し、被害を最小限に食い止めるため、総社市などの主催で高梁川総合水防演習が5月28日、高梁川河川敷グラウンド一帯で行われました。

高梁川流域に台風が上陸し、水害や土砂災害が発生したとの想定で、高梁川流域10市町の水防団（消防団）約600人と、消防、自衛隊、警察、一般市民など約1400人が演習に参加。演習では水防工法訓練や給水・給食訓練、救出訓練などが本番さながらの雰囲気

のなか行われ、万が一の水害時に備えていました。

また、演習に合わせて神在地区では、住民の避難訓練を実施。避難勧告が発令された後、パトカーや水防団員が誘導するなか、神在小学校まで避難経路を確認しながら避難しました。

これから台風のシーズンを迎えます。水害に備えて持ち出し品や非常食などの準備をしておく、ハザードマップや避難経路を確認するなど、自分でできることから始めてみましょう。

問い合わせ 危機管理室 (☎08599)



■水防工法訓練

高梁川の堤防が決壊したとの想定で行われた水防工法訓練には、高梁川流域の水防団約600人が参加。土のう袋をくくった木を川に流すことで流水の勢いを緩和し、川岸が崩れるのを防ぐ「木流し工法」や、土のうを円形に積み上げ川側との水位差を小さくし、漏水量の増加を抑える「釜段工法」など6種類の工法で訓練が行われた。



■救護所開設、救護・トリアージ訓練

救護所開設、救助・トリアージ訓練には市消防本部と日本赤十字社の職員が参加。負傷者の重症度に応じて診察の優先順位を決めるトリアージを実施し、重傷者は日本赤十字社が開設した救護所に運ばれた。負傷者は重症度に応じて色の異なるタグを手付け、診察を受けた。



■救出訓練

市消防本部と岡山県警が訓練に参加。土砂崩れにより車内に人が閉じ込められたとの想定で、土砂を取り除き、油圧カッターで車体を切断して、運転席と後部座席から1人ずつを救出した。



■神在地区避難訓練

住宅地が水没したとの想定で、住民約70人が参加して避難訓練を実施。避難を呼びかけるサイレンが鳴った後、3か所に集まった住民らを警察官や水防団が誘導。高齢者から子どもまで迅速に避難できるようにと、車椅子やベビーカーを使って神在小学校まで避難した。



■給水・給食訓練

断水したとの想定で市と自衛隊、日本赤十字社で給水・給食訓練を実施。市の給水車で水を運んだ後、自衛隊の炊き出し用車両で米を炊き上げた。炊いた米は、おにぎりにして配布された。



熊本地震 被災地への募金

4月14日の熊本地震発生以降、市民の皆さまから温かい募金をいただいています。現在の募金総額は次のとおりです。

募金総額 698万6410円(6月16日現在)

募金は次の場所で随時受け付けています。

市役所玄関、山手出張所、清音出張所、西出張所、北出張所、昭和出張所

